

# 東奥日報

2020年(令和2年)10月27日(火曜日) (16)

## 「菌類はすごい」熱く語る 星野教授 八工大・星野教授 著書刊行イベント

ハ  
戸

「すごいぜ！菌類」(ちくまプリマー新書)と文庫版「菌世界紀行」誰も知らないきのこを追って」(岩波現代文庫)の刊行を記念して、著者の星野保・八戸工業大生命環境科学科教授が17日、八戸市の八戸ブックセンターでトークイベントを行った。研究対象としているカビやキノコ、酵母といった菌類の特徴をはじめ、雪の下で活動する「雪腐病菌」や「みそ玉」に付く菌の研究を紹介しながら、ミクロの世界で生きる生物の魅力を語った。

34年前から菌類の研究に取り組む星野教授は、遺伝子から見て菌類は植物やアメーバよりも動物に近く「細菌とは全然違う」と強調。また地面が凍った場所で生きる菌について「自分で体の周りの環境を制御し、凍らないうちに不凍タンパク質」という「服」を着ている」と説明した。

約20年前、ロシアで菌類の採取調査に当たった時の写真を示しながら、現地の人たちとのユニークな交流について語り、会場の笑いを誘う場面もあった。

星野教授は東京都出身。名古屋大大学院農学研究所(農学)を卒業後、博士(農学)。産業技術総合研究所北海道センターなどを経て昨年4月から現職。著書は他に「菌は語る―ミクロの開拓者たちの生きざまと知性」(春秋社)。(千葉真由美)



八戸ブックセンターでトークイベントを行った星野教授(左)

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」